

いしかれん だより

第19号
1997. 9

石川県精神障害者
家族会連合会
〒920 金沢市南新保町ル3番1号
石川県精神保健福祉センター内
TEL (076) 238-5761
FAX (076) 238-5762

巻頭言

「家族会のこれからは」

石 家 連
副会長 宮 井

みぞれ
雲



精神障害者の医療、
保健福祉が充実されつ
つある今日ですが、平
成7年に精神保健福祉
法に改正されてから
は、いっそう県や精神
保健福祉センターが積

極的に行政施策の情報提供を行い、また保健所
が各単会の家族、メンバー達の社会復帰に向け
ての支援事業を行っています。

お陰様で現在では、県内15の家族会のうち13
家族会が14ヶ所の小規模作業所を開設していま
す。

しかしこの念願の作業所の多くは高齢者の多
い家族会がかかわり、運営基盤も極めて弱く最
近では都市型の作業所と地域型の作業所の格差
が少しずつですが出てきており、ここで働く職
員の待遇にも厳しいものがあります。

こんな中で去る7月23日の新聞に金沢市が精
神障害者とその家族の支援事業として家族が窓
口となる相談事業を行うと掲載されていまし
た。また、投書欄には能都町の61歳の方の施設
訪問の感想が載っており、その中の通所生と指
導員のかかわり方に私達家族も色々と教えられ

ました。

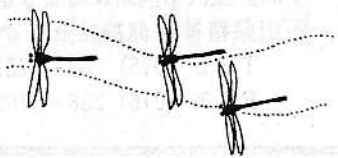
私達は「小規模作業所」とは？の発足当時を
思い「単に社会に帰る所ではなく、心の自立を
促し病気の再発防止のための重要な場所であ
る」と言うことを心に留める必要があります。
メンバー達の願いを指導員、家族と一緒に考え
悩んで、共に生きる努力を重ねて行きたい。ま
た、今抱えている大きな問題——これからの生
活と住居について——、そして特に遠隔地であ
る能登地区に於ける救急医療の問題を、家族の
高齢化の問題と併せてどうして行くのか、行政
の指導援助はどうあるべきか等々、我々家族が
これから考え行わなければならない事が沢山あ
ります。

これら一つ一つをねばり強く行政に訴え解決
して行く事が大切でなからうかと思えます。

私共家族の念願であった「小規模作業所通所
者への交通費半額助成の制度」が出来たことに
ついて行政の方々の温かいご理解とご協力の賜
と深く感謝し紙上をお借りして御礼申し上げます。
今後も障害者への理解と支援を行政に働き
かけ障害者の保健福祉の充実に向けた運動を重
ねて行こうと思えます。

以上を巻頭言と致します。

特集 家族会員の声



「共生が普通のことになれば」

ことじ作業所家族会 内山 登美夫

「全家連」、「石家連」？初めて聞いた時はとまどいました。何？それ。

娘は、親元（静岡県浜北市）を離れて、金沢市内の「ことじ作業所」とグループホームで訓練を受けています。私自身は病気を隠すという気持ちはそれ程なくて、話の中で出せる時はなるべく自然に、かつ無理解があれば説明しているように努力はしています。甥も分裂病でした。姉も苦労していました。大阪で暮らしていますが家族会に参加している風でもなく孤独だったのではないかと、今になって推察されます。

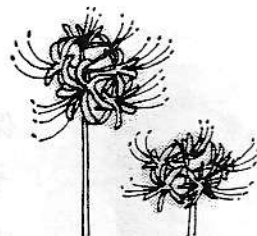
それにしても病気の人に対し社会の見る目は厳し過ぎはしないでしょうか？（私を含めて）今の日本では心身満足な人を基準にしていますから、それから少しでもはずれると白い目で見られ勝ちです。健常者というだけで自分を律することもままならず、乱れた生活をしていても「個人の自由」にされています。（多少はそういう評価は受けても）それに反し障害者は症状のつらい人も、少し気をつければ普通の生活を送れる人も同じ様に見られているのは納得がいかないのです。社会復帰には、私でさえ「えー!!、こんな大変な生活できるかな？」とつい口に出す程の内容を要求されます。病気の症状を考慮したとしても前述の気持ちは押さえきれません。

世の中の動きやしくみ、大多数の人の考え方が効率一辺倒からもっと多様な生き方や価値観が認められるようにならないと、又そういう方向へ動きつつあるような気配もしています。私自身、省みて、とても大変なことです

ています。

話は少し逸れます。神戸の小学生殺人事件容疑者の中学生のことですが、家族の方々の苦しみがとても気になります。もし私と同じ地域での事でしたら、その家族を励ましたいと思います。どうか引越されなければ居られない状態にだけはならない事を祈ります。本人の問題と家族は別なのです。もっと成熟した人間関係を望みます。

+++++



鳴和の里家族会 柏木 よし子

(1) 親が高齢になって思うこと

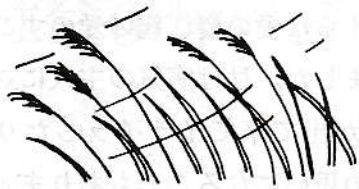
自立のむずかしい心配な子の行く末を案じるのは私だけではないと思います。まだ先のことにように思ってみたり、急がないと、誰に頼もうか…いつも堂々巡りになってしまいます。具体的に相談できるコーナーを設けてほしい。ケースバイケースだとは思いますが気掛かりなことはこのことにつきます。

(2) 会員増を図ること

2～3年前かもっと前からでしょうか。PSWの制度化が取り上げられているようですが、早急な実現を望むものです。

轍の失敗者が話せば聴いてはくれますが、2度目から「私もどうにかやっていくから心配は無用」と敬遠されてしまいました。専門知識のなさか話術がへたなせい、情けない思いです。

そんな方ばかりでもありませんが、資源の第一番としての家族会にこられるよう、診療所、病院、保健所など協力してほしいと思います。末端の私たち家族会員が手助けできる方法を教えて頂きたいものです。



けやきの森家族会 金丸 しづ子

精神神経科の外来を訪ねてから13年。当初は何もわからず、「先生この病気は？」と話しかけますと、「いつ私が病気と言いましたか」と叱られ、なかなかしゃべらない子に代って、私が話しますと、「お母さんに聞いているのではありません」と止められる。こんな調子で5～6年はあっという間に過ぎ去っていった。ただ一つ、「地域の保健所に行ってみなさい」との助言のみ先生から頂いた唯一最大の贈物であったと思う。

週一回のデイケアの参加、家族会に私は入会、作業所をつくるべく協力、さあ、これからと言う時に幻聴の症状が出始めた。早速に先生に連絡すると、「入院施設のある病院で診察を受けて下さい」「どうしても行かぬ時はどうするのですか」との私の質問に「お母さんしっかり聞いて下さい。最後は警察に依頼するのです」こんな調子で、私にとりまして受け入れ難い先生でした。この先生から離れるチャンスを得たと思い他の病院で手当に専念。でも幻聴は今も消える事はありません。

ぜんかれん7月号にも書かれてあります如く、残念乍ら薬をのんだだけで病気は解決しないと。一方、糖尿病や高血圧と同様、慢性疾患と考えるべきと書かれてあるが、これ等の病気は科学的に検査が出来て現在の状態がつかみやすい。精神病は検査の方法があるのでしょうか。5年も6年も表面に症状が出ない限り病気でないと言われる。早期発見早期治療と言われる現在、この病気は何をもって早期発見が出来るのだろうか。何んともやるせない気持ちで一杯である。最新の薬をのみ続けても、幻聴が消えないと悩み、苦しみながらも、この春開所し

たばかりの作業所へ頑張って通所している。

一日も早く、より効果のある薬がでてまいりますように、そしてその効果ある薬と仲良くして与えられた人生楽しく生きることが出来ますように念じてやみません。

+++++



「白山登山して思う」

鳴和の里家族会 中 農 良 男

先日、台風8号が通過した後、梅雨時期には珍しく晴れ上がり好天に恵まれた7月1日白山の夏山開きに参加致しました。

前日から約80名が室堂に泊まり、早朝3時30分に太鼓の音で起床し45分程で頂上に着き4時37分の日の出を寒さをこらえながらご来光を迎えました。足下の雲海の向かいには、白馬、剣、立山、薬師、穂高、乗鞍、御岳の各山々のシルエットが素晴らしく、それに一刻一刻時間がたつにつれて空の色が薄赤く染まりオレンジ色と変わり、立山の右手より黄金色の日の出が顔をだすと、山伏はホラ貝を吹き、登山者は一斉に万歳の三唱と拍手がなされた。周りの人達の顔は皆昨日の苦勞して登って来た辛さを忘れ、登って来て良かったと喜びに満ちた顔をしていました。

白山神社の木下主任の説明によりますと、1日の夏山開きでは、平成元年以来8年ぶりの見事なご来光でありました。

さて、精神障害者の家庭は、一つの目標の山に向かって行動していただきたいとおもいます。山道は生易しい平坦な道ばかりではありません。しかしこの道なき道を一步一步進まなければ、山頂すなわち目標に到達出来ない事になります。

苦あれば楽あり、苦しみを乗り越えて頑張りましょう。



けやきの森家族会 高谷 紀代子

主人が退院してやがて6年になろうとしています。退院当初は身体はやせ、フラフラしながら歩き、無気力でボンヤリしていることの多かった主人は保健所のデイケアや作業所に通所する様になり、めきめきと顔色が良くなり競争して作業をこなす様にもなりました。これも所長さんや指導員さんのやさしい言葉かけにはげまされ、メンバーの方のやさしさの中で安心感と信頼関係の中で安定した状態を保っていることが妻としてありがたいと思います。

57歳になった主人、多くは求めなく社会の何らかの役に立つ人間として存在感のある一日一日が送れます様願っております。

又、家族会での学びは私一人ではない、同じ痛みを持った仲間が多くいるそのことで私の世界は広がりました。会員のほとんどは、患者の

子を持つ親です。その中で、子に何も求めない無条件でひたすらな愛の姿、親の愛のすごさを学ばせて頂きました。私は病気の主人に対して時々求める心が出て来てイライラしたり、なぜ、どうしての思いになることもありますがそんな時、主人の親のことを思い、家族会員の親の心境を思い出し心を変える努力をいたしますが、親の心境にはなかなか近づけない、小さな自分を見ることがあります。が、私はそれを見ながら成長せねばとの思いです。配偶者に病気のおありの方も家族会に参加して共に病気と向き合い前向きに乗りこえていきたい。仲間を待っています。

又、小規模作業所づくりの仲間に参加させて頂きましたが、私達の力だけで出来ない、県市行政や保健所の方、家族会の和の力で、その場その場での立場の働きの中で作って頂いたと感謝の思いいっぱいでございます。

この動きの中で多くの出会いがあり多くの援助がありました。その中で私共は生かされていることを忘れてはならない、感謝の心で生活せねばと思わせて頂きました。

精神障害小規模作業所等通所交通費補助金について

石川県では、平成9年度から精神障害者の社会復帰・社会参加の促進のため、小規模作業所及び授産施設への通所交通費の半額助成を行うことになりました。都道府県では東京都に次いで2番目だそうです。

これまで、小規模作業所に通所する人の交通費の負担は大きく、人によっては働いた月々の工賃より交通費のほうが上回ることもめずらしくなく、家族や指導員も心苦しく思っていました。昨年度も家族会として県に交通費の助成を陳情していたところであり、実現してとても喜

んでいます。

具体的な交通費の交付方法は、通所者に作業所や授産施設から、毎日帰りの交通費を原則として回数券で交付することとなっています。ただし、定期券を利用する通所者には、定期券の金額の日割計算により1日の単価を定め、1カ月間の通所日数の実績に1日の単価を乗じた金額の交付になります。

この助成制度を利用することにより、もっと多くの人が作業所に通所でき、社会参加につながっていくことを望みます。

社会復帰の会 泉の家開設10周年について

泉の家 会長 武 美 宏

社会復帰の会・泉の家、開設10周年に当たり一言ご挨拶を申し上げます。昨年、前会長の星川先生よりバトンタッチをさせていただいてはや1年が経過しましたが、その間に、マスコミの方々には精神障害者の家族であると名乗り出た者の一人であります。また、身体障害者並の福祉の充実を図ってほしいとマスコミの方々や、行政関係の皆様にも訴え続けてまいりました。平成7年、法律も変わりましたが、私達はそれらが恒久の市民権として認知されるまで根気よく一歩ずつ今後も訴え続けて行くつもりです。

さて、社会復帰の会・泉の家が10周年という記念すべき日を迎えることが出来たのは何と云っても岡部先生を始めとして前会長の星川先生、当日は骨折で来られなかった宮保さん、そのほか諸先輩の方々、ソーシャルワーカーの方々、更に行政を含めた関係機関の方々の御蔭でありまして、この紙面をお借りして感謝とお礼を申しあげたいと思います。

そして蔭になり日なたとなって毎日指導をして来たスタッフの三谷さん、宮田さん、レザークラフトの高瀬さん、手芸の谷井さん、前委員長の矢萩さん、現委員長の中興さん、泉の家の料理の鉄人、イベントのつど腕を発揮するプロ級のカメラマン、ギターを片手に楽しく歌をリードするY・Tさん、いつも泉の家を明るくしてくれるマドンナのR・Hさん、そのほかたくさんの方々のメンバーの方々そしてボランティアの方々のご尽力と励ましに支えられて今日まで歩んでまいりました。これからもよろしくご支援



10周年記念式典にて 武会長挨拶

のほどお願い申し上げます。

この式典にはメンバーの方々の企画と行動によって迎えることが出来ました。体験談、司会等々メンバーそして家族の感動はスタッフ以上のものがありました。メンバーのなまの体験談がマイクを通して、場内に響き渡ると、場内は一瞬静寂に包まれてやがてご家族のすすり泣きの声も聞かれました。万感胸に迫る思いで聞かせていただきました。

またやれば出来ることも実感しました。これからの10年は社会福祉法人化によりメンバーがクラブハウスの運営にも参加し、将来に希望がもてるよう生きがいのある自立した生活を営めるよう、更なる発展を求めて皆一丸となって協力しあって、頑張っていきたいと思っています。道は遠くて長くとも、「今からだ!」「これからだ!」とお互いに声を掛け合って一歩一歩進むつもりです。

皆さんのあたたかいご理解とご協力を今後ともよろしくお願い致します。

作業所紹介

クリエイションけやき

所長 中山 紀代子

「クリエイションけやき」が開所して早4か月経ちました。田植前だったまわりの田んぼの稲も豊かに実り収穫の秋を迎えようとしています。

メンバー達もすっかり通所することに馴れて作業やレクリエーション、自主製品の“花たわし”作りにと順調にスケジュールをこなしている此頃です。

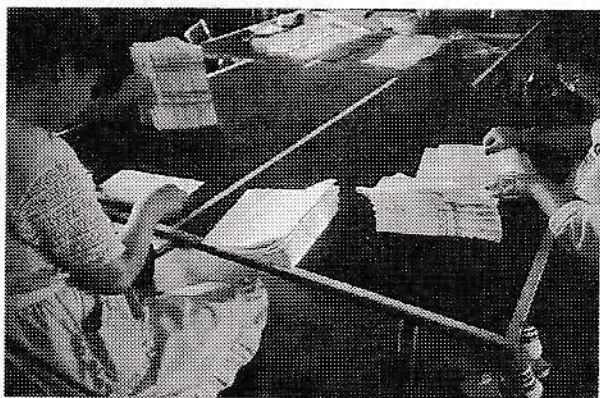
作業の方は野菜の袋詰とキリコの土台作りが主であと封筒詰めやチラシ折り等を随時やって、その合間に“花たわし”を作ります。

毎週木曜日はレクリエーションの日で月一回は所外で施設見学、バーベキュー、ボーリング、カラオケ等と外食を楽しんでいます。

他はワックスがけ、畑の草とり、陶芸、草木染め等や畑でとれた野菜を使って調理をすることもあります。



近所の方が作ってくださった看板を取り付けているところ



メンバーの作業風景

朝9時半からと午後3時からの計1時間のミーティングは皆の大切なコミュニケーションの場となり、色んな話題に花が咲き、なごやかでゆったりとした時間が流れています。

開所から今日までのうちで一番感激した事と云えば、近所に住む方と指導員の知人の方が善意で看板を作って下さったことです。

開所当時、場所がわかりにくく皆様に迷惑をおかけしていましたが建物のうしろと横に分かり易い看板がついたことで解消されました。

作業所がメンバーと家族だけの閉ざされた場所にならないで、一般の人達にも気軽に顔を出してもらえる様な所に出来たらと思っている私共にとってこの看板の件は本当に嬉しい出来事でした。心から感謝しています。

“花たわし”を扱って下さるお店やグループも出来て少しでも作業所のPRが出来つゝあると皆希望に胸ふくらませています。

偏見をなくし病気に対する理解を得る為にも地域の人々に支えて頂きたいと切に願い乍ら、家族自身も前向きに努力しなければならないと痛感している昨今です。そしてもっと多くの作業所が開設される事を願ってやみません。

● 石家連の行事から ●

「心のふれあい講演会」

—主催 石家連 くろゆり会—

平成9年3月24日、小松市すこやかセンターで、北海道すみれ会宮岸真澄さん・菅原学さんを迎えて、「わたしたちの力を信じて」と題して講演会が催されました。



すみれ会は回復者による自助グループであり、作業所を運営しています。スタッフは全員回復者です。



114名の出席者が熱心に聞き入っています。



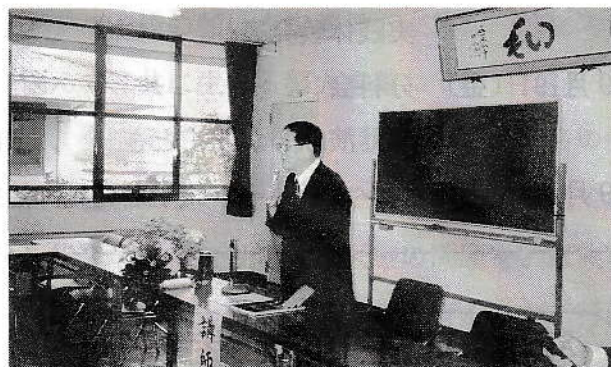
会場との質疑応答で「今では、親が早い時期に放り出してくれたことを感謝しています」と宮岸さん。

石家連の「総会と講演会」

去る6月25日、石川県精神保健福祉センターで79名が出席して、行われました。



藤井県厚生部長の挨拶のほか、来賓の水腰県保健所長会長と当会の顧問である菊知先生からも励ましの言葉をいただきました。



中田勉氏の講演会

総会終了後、富山県めひの野園理事長中田勉氏の「施設づくりとこれからの障害者福祉」について講演会がありました。

「施設では、ひとりひとりをどう大事に扱っているか。よい職員をどう確保するかが、運営上大事な点です。」



真剣に聴いている会員のみなさん。

お知らせ

第30回 全家連大分大会 大分県別府市ビーコンプラザ

11月19日(水) 座談会「ノーマライゼーション7か年戦略の実現をめざして」

講演「障害のある人々が地域社会の中で共に暮らせる社会」 吉川武彦氏

11月20日(木)

講演A「精神障害者の現行福祉制度の現状と課題」

講演B「患者の症状に応じた家族の対応」

分科会

平成9年度北信越ブロック研修会

富山市呉羽町 富山観光ホテル ☎0764-31-5551

テーマ こころの壁をとり除きともに生きる社会をめざして

9月18日(木) 講演「心の壁を乗り越えて」 講師 山口県立大学 山田富秋先生
実践体験発表

9月19日(金) 分科会

講演「心が開くとき」 講師「賢治の学校」運動主宰 鳥山敏子先生

9月20日(土) シンポジウム「早期発見・治療と偏見除去」

平成9年度事業計画

常務理事会 月1回

役員会 年4回

全家連評議員会・リーダー研修会 5月28日～30日

平成9年度総会・講演会 6月25日

平成9年度北信越ブロック研修会 9月18日～20日

精神障害者家族会と病院長との懇談会 11月5日(予定)

第30回全国精神障害者家族大会

(大分県、別府市) 11月19日～20日

精神障害者小規模作業所作品展 (日程未定)

心のふれあい講演会 (日程未定)

専門委員会活動

「いしかれんだより」19号、20号発行

編集後記

今回は、皆様からの投稿をたくさんいただき、頁数も8ページに増やしました。

今年の夏は大変暑い夏でしたが、秋風と共に、北信越ブロック、病院長との懇談会と、行事が次々と催されます。お忙しい方も何とかやり繰りして、元気で参加しましょう。